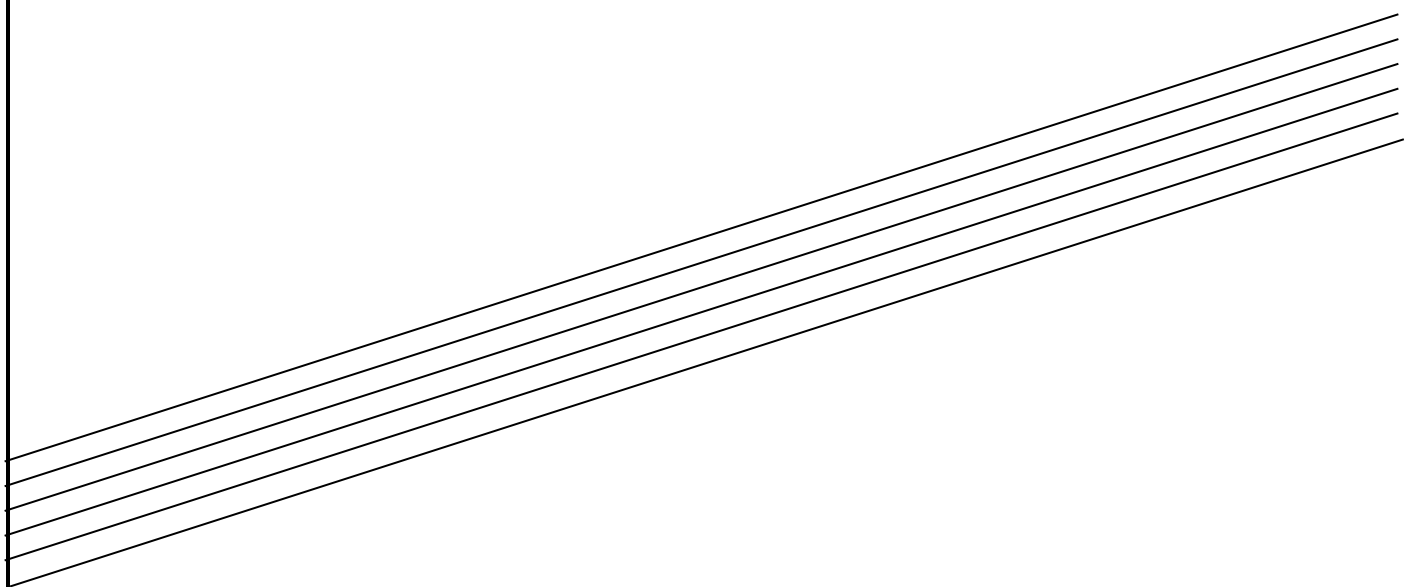


# 稲永準動詞講義 の実況中継 (上)

講師 稲永亮(臨海セミナー講師)

準動詞の導入～不定詞①(名詞用法・形容詞用法)





# 第0講 準動詞の導入

## ●さあ、準動詞の世界へ！

さて、今回からは「準動詞」の分野を扱っていきます。この「準動詞」という言葉は、聞き覚えのない人もいるかもしれない。学校によっては教えないことがあるからね。簡単に言うと「準動詞」と言うのは、グループ名です。ジャニーズの「嵐」とか K-POP の「KARA」とかと同じね。ある特徴をもつ文法を一まとめにした言葉なんです。

そのグループに属する文法は何かと言うと、これらは誰もが聞き覚えのあることでしょう。「準動詞」に属するのは、「不定詞」「動名詞」「分詞」「分詞構文」の4つです。

### 準動詞

- |       |             |
|-------|-------------|
| ①不定詞  | to V        |
| ②動名詞  | Ving        |
| ③分詞   | Ving /Vp.p. |
| ④分詞構文 | Ving/ Vp.p. |

これは必ず「常識」にしてね。「準動詞に含まれる文法は何？」と聞かれたらすぐに答えられるようにしておくこと。

先ほど、「君たちは『準動詞』という言葉を知らないかもしれない。」ということを行ったけど、これは実は困った事態なんだ。最近の学校の英文法はできるだけ簡単にするために、教えることを減らそう、減らそうとする。その結果、例えば今回の範囲であれば、「不定詞」とか「動名詞」とかの表現の形や慣用表現みたいに、テストに出るところばかりを扱って(つまり理屈抜きに暗記させて)、そもそもそれが何なのかを全く教えないということが多いんだ。これを数学で考えたらエライ話だ。公式も理屈もなしに「問題を教科書と同じように解け！覚えろ！」と言ってるんだからね。もちろん数学だったら、皆すぐに異常だとわかるんだけど、英語や古文みたいな「言語科目」だと、「自分が勉強不足なのかな…。単語の問題

かな…。」と思って、なんとなく受け入れてしまう。だからそんな問題な教え方が平気な顔してのさばっているんだ。

「準動詞というものが何か」ということがわかっていないと、結局テストでも点が取れない。まず、どういう時に彼らを使えばいいのかがさっぱりわからない。だって、そもそも、彼らが何者なのかわかっていないんだから。そうでしょ？

そこでまず、クイズをしてみます。このクイズにきちんと答えられるのであれば、君らは良い先生に習っている。トンチンカンな答えをしているのであれば、今日からこの本で生まれ変わろうというわけだ。それじゃあ、行くよ。

問：不定詞ってなんのためにあるんですか？

どう？これ、なかなか答えられないでしょ？他のものならわかるんですよ。時制は「時間」を表すためにあるし、仮定法は「仮想の世界」を描くためにある。比較は「2者を比べる」ためにあるんでしょ。でも不定詞って何のためにあるのか聞かれると、よくわからない。よく生徒に「不定詞ってなんなの？」って質問するんだけど、その時も、もう驚くほど答えられない。そんでもって、毎年いるのが「to?」っていう謎の解答ね。全然答えになっていないという(笑)。

## ●準動詞を理解するところから始めよう！

まあ、もう一度言っておくと、答えられないのは君たちのせいじゃない。テストに出ないところを教えない教育のせい。確かにテストで直接聞かれるのは「不定詞」や「動名詞」といったところだけど、**根っこの部分が理解できていなければテストもできないんだから、こういったところも問われているも同然だよね**。「絶対値とはなんのことですか？」という問題が数学で聞かれないからと言って、絶対値が何か知らなくていいわけではないのと同じ。

中学校の頃は英語はそこそこできていたのに、高校に入ってから急に英語ができなくなった(嫌いになった)！！

これ、僕が生徒と面談していて一番多く聞く言葉。実はこれにはトリックがあって、中学校英語は「表現を多く知っていること」を求められたから、単語や表現を覚えていれば点が取れたんだけど、**高校英語は「文法の原理を理解できていること」が求められているんだ**。だから、今まで通りの勉強では苦手になるのは当たり前。君たちは今知ってよかったよ。

だから、稲永の英文法では、「準動詞」というものが何かというところから扱っていくよ。**きちんと原理を理解する。だから、点数が伸びる。**これが合言葉ね。

## ●準動詞とはなにか

では、準動詞とはなにかについて扱っていこう。ここはだいたいとばされてしまって、滅多に学校では教わらないところだ。だけど、ここを勉強することが無駄ではないことはこれから嫌になるくらいわからせてあげるから、ここは絶対に手を抜かずに完全に理解しようね。

まず、英語の構文の基礎からおさらいするよ。次の質問に答えてください。

問：一文に動詞(V)はいくつある？

これは大丈夫ですね。もちろん1個です。なんで1個しかないのかと言うと、「英語の述語は動詞(V)がやる」からです。述語って、どんな言語でもそうだけど、1文に1個しかおけない。例えば日本語なら、動詞の他に形容詞、形容動詞が述語になる(用言って習うね)けど、話は同じだ。例えば日本語で「彼女は大きいかわいい走っている！」って言ったって、結局何が言いたいのかわかんないでしょ(笑)。「彼女は大きい。」「彼女はかわいい。」「彼女は走っている。」…こんな風に述語は1文に1つしかおけません。そして英語では述語は動詞だけが担当する。だから1文に1つまでなんだね。

でも、皆は同じように2つの文をくっつけて1つの文にする方法も知っ

ているね。2つの文をくっつけるために、どんなものを使うかわかりますか？

(生徒)「接続詞？」

そう、その通り。接続詞、つまり、「**接着剤**」のはたらきをするものを使って、**2つの文を1つに繋ぎ合わせる**んです。日本語なら「私が帰ってきた。」「雨が降り出した。」という2つの文を「私が帰ってきた**時に**雨が降り出した。」と言う風に繋いでいます。接続詞以外に、関係詞(関係代名詞・関係副詞・複合関係代名詞)と疑問詞(間接疑問文)がこのはたらきをすることも頭の片隅に置いておこう。

じゃあ、ここでもう一つ考えよう。前提知識はいらない。次のクイズ、君ならどうする？

問：「**接着剤**」のはたらきをする文法を用いる以外に2つの文を1つに繋ぐ方法は？

う〜ん、これはなかなかわからないみたいですねえ。もう一度言うけど、前提知識はいらないからね。手掛かりはこの2つ。「**2つの文をそのまま繋げることはできない(Vが2つになるから)**」、そして「**接着剤を使えば2つの文は繋げるが、今回は使わずに**」。さて、それなら君だったらどうする？

(生徒)「……………」

ギブアップのようですね。答えは簡単です。2文をそのまま繋げないのなら、**片っぽの文をぶっ壊してしまえばいいんです(笑)**。そうすれば1文と破壊された文の粉末になるので、繋がりますよと。…なんですか？インチキですか？……やめなさいテキストを投げつけるのは。

でもそういうことです。2文の文をくっつけるやり方としては「**2つの文をそのままの形で接着剤で1つにくっつける**。」というものの他に「**片**

一方の文を崩して文じゃなくしてしまう。」というものがあるということ  
を覚えておくこと。そしてその「文の崩し屋」こそが、今回学ぶ準動詞な  
んです。はい、ここはしっかりノートにとって。

準動詞＝文を崩すはたらきをする文法！

ところで文を崩すってどういうことでしょうか？ヒントはさっきのと  
ころに隠れています。1文には必ず述語があって、その述語のはたらきを  
動詞(V)がしているんでしたね。じゃあ、その動詞が文の大黒柱なのだから、  
この動詞を動詞じゃなくさせてしまえばいいんです。そうでしょ？そ  
してそれこそが準動詞です。

## まとめ

動詞(V)は1文に1つ。英語では述語のはたらきをしているため、1つ  
は必ず必要だし、2つ以上は置けない(=文と文をそのまま繋げない)。

(×)I like I play baseball.  
V V

### <2文を繋ぐ方法>

①接着剤を用いて2文をそのまま繋ぐ。

担当：接続詞・関係詞・疑問詞

<When I was a sixteen>, I played baseball.  
接 S' V' S V

→接続詞が接着剤の役割をして、2つの文を繋いでいる！

②片方の文を崩す。

担当：準動詞(不定詞・動名詞・分詞・分詞構文)

今回学ぶ準動詞は「2つの文を1つに繋ぐため、片方の文を崩すのに必要」な文法ということが理解出来ましたね。それじゃあ、実際に準動詞を使って、片方の文を崩して、文を繋いでみましょう。板書に書いてある例でいいですね。

I like ○○.	「私は○○を好む」	+	I play baseball.	「私は野球をする。」
S V O			S V O	

この2つの文を接続詞なしでくっつけたい。どうしたらいいでしょうか。一応君たちは中学校で英語をやっているわけだし、このI play tennis.をどうすればいいかについてはわかってるんじゃないかな？どうですか？

(生徒)「不定詞に変える。」

そうそう、それです。じゃあ変えてみて下さい。

(生徒)「to play baseball.」

OK よくできました。その通りです。皆の考えも同じでしょう。つまり答えはこうだ。

I like to play baseball. 「私は野球をすることが好きだ。」

…これ何をしたのかわかった？今まで無意識にやっていたと思うけど、ちゃんと理解してやってくれと言っているんです。likeは「～を好む」という意味の他動詞で後ろに目的語(名詞)が欲しい。でもI play baseball.は「文」であって、「名詞」ではないので、I likeの後ろに突っ込むことはできない。そこでI play baseball.の文を「名詞」に変えて、I likeの後ろに突っ込んだんです。…どうやって？…ええ、動詞のplayを不定詞の



名詞用法に変えたんです。

ここで、準動詞の細かい働きをまとめておきましょう。

### 準動詞のはたらき

文	名詞	形容詞	副詞	形
不定詞	○	○	○	to V ~
動名詞	○	—	—	~ing
分詞	—	○	—	~ing / p.p.
分詞構文	—	—	○	~ing / p.p.

今君たちが使ったのが、不定詞の名詞用法。不定詞と名詞の間のところに○がついてるでしょ。これは「**不定詞は文を崩して、名詞のカタマリに変形させることができます**」って意味。だからさっきの like の目的語の位置に文を崩して突っ込むことができた。言い換えると、play は動詞だったんだけど、不定詞にしたことで、”to play baseball”っていう大きな「名詞」になったってこと。後は、動名詞も名詞に○がついているね。だからこうやっても OK だよ。

I like playing baseball. 「私は野球をすることが好きだ。」

とりあえずはこんなところ。ここまで大丈夫？ここまででわからなくなったら、一旦読み直してね。これ、すんごく大事だから。こんな風に、さっきの「like の目的語」というように、必要とされている形に応じて文を壊していくってのが、こいつらの仕事ね。例えば形容詞が欲しいなら、不定詞の形容詞用法か分詞。副詞が欲しいなら不定詞の副詞用法化か分詞構文。わかりますね。

…で、文が壊れていることがわかったわけだけど、この講義では、**壊れる前の姿もきちんと意識してほしいんだ**。そこで、例文には元の文の形を残しておく。ちょっとこれを見て。

⑤                      ⑥

(1) I like to play baseball.      「私は野球をすることが好きだ。」  
      S   V      O

⑤                      ⑥

(2) I like playing baseball.      「私は野球をすることが好きだ。」  
      S   V      O

文の上に○で囲った文型が書いてある。これが「崩す前は元々～だったもの」という意味ね。⑤は「元V」さん。繰り返すけど、今はto play[playing] baseball「野球をすること」という**名詞**になってるからね。これ、よくある勘違いで、(1)の文で不定詞はどれ？って言われたら、to playって答える人がほとんどだろうけど、違うからね。もう一度言うけど、to play baseballで不定詞。(2)ならplaying baseballが動名詞ね。

「動詞が違う品詞になってしまったんだけど、半分だけ動詞の機能が残っていて、一応大黒柱だった名残は残っている」…これが準動詞なんだ。大黒柱だった名残というのは、baseballみたいに⑥とかをひきつけてヒトカタマリにしているところね。to playだけじゃ「～をすること」っていう意味不明な名詞になってしまう。後ろに目的語をとっていることが大事。

じゃあ、「準動詞」っていう名前の意味はわかる？これを考えるにはブラックサンダーみたいなチョコレートの裏面を見てほしいんだけど、あれって、製品名のところに「準チョコレート」って書いてあるの知ってる？純粋なチョコレートっていうのはカカオを加工した黒い液体で、これはすっごく苦いわけ。とてもお菓子とか言えたもんじゃない。中央アメリカの古代人はスープとして唐辛子入れて飲んでたものだからね。いや**古代人味覚大丈夫かって話だけど(笑)**。それがヨーロッパに伝わって、牛乳とか砂糖とかを入れて、今のミルクチョコレートがあるのね。でも、それってものはチョコレートとは言えないでしょ。チョコの成分は半分以下だもん。でもまあ、少しはチョコレートは入ってるからチョコレートじゃないとも言えない。だから「準チョコレート」って呼ぶわけ。それと同じで、「動詞を崩してしまった結果、いろいろな機能が失われて違う品詞になってしまった。でもまあ、一応目的語を連れてきたり、昔文だった跡があるので半分は動詞とも言える。」から「準動詞」。わかった？

## ●動詞から準動詞へ ～失われた機能～

ここでまず、準動詞共通の仕組みを一気に終わらせてしまおう。実はここ、かなりの難所として、多くの受験生の苦手分野なんだよ。なんでだと思う？…そう、準動詞は文を崩したものの(元々は文だった)という事実を知らないから。君たちはもうそういったことをここまで読んできて知っているんで、余裕で理解できます。ここで一旦仕組みを理解してしまえば、あとは不定詞とか、動名詞とかのそれぞれの形をおさえるだけだからね。とりあえず仕組みだけ、理解してください。どんどん追い返しますよ！じゃあ、ちょっとおさらい。「準動詞は動詞を崩したもので、半分動詞としての機能は残っているが、半分は失われてしまった。」という話でした。

で、失われてしまっている機能があるということなんだけれども、失われたままでいいのかと言うと、もちろん困る。今回のテーマは、「失われた機能をどう補うか」です。

## ● 消えた㊦ 必要ならばこちらがつけてしまえ！

それじゃあ、さっそく板書を見てみて下さい。

I like ○○.      +      I play baseball.

S    V    O

S    V    O

↓   ↓   ↓

×   ㊦   ㊦

I like to play baseball.

S   V            O (準動詞 (不定詞) )

「私は野球をすることが好きだ。」

何か気づいたことある？…そう、“I play baseball.”が“to play baseball”になっているんだけど、元々文にあったS(つまり、㊦。今回はI)が、崩した時に消えてしまっているね。実は基本的に準動詞にした場合、㊦が消えてしまうんだ。これ、実はめっちゃ大事なことです。基本的に㊦が消えても意味が通じる場合は、消えたままにしておいていいんです。今回も「私は野球することが好きだ。」と言った時、「野球するのは誰？」って言ったらもちろん「自分」だろうってわかるよね。だからわざわざ書

かないんです。今回もそうだけど「その文のSと㊦が同じなら基本的に消える」と思っておいて。

まあ、そう言われたらピンとききましたか？そう、「消しちゃいけないパターン」、つまり「㊦をちゃんといわないと意味が通じないパターン」があるんですね。それはこちらをご覧くださいな。

	㊥		㊦
(×)It is very difficult [to speak Russian].			
(S)V	C		S
仮			真
？「ロシア語を話すのは非常に困難だ。」			

この文章ちょっと考えてみて下さい。不定詞の崩される前の元の文は”～speak Russian”ですが、果たして本当にロシア語を話すのは非常に困難でしょうか？

(生徒)「難しいんじゃないですか？僕なんか英語も苦手だし、ロシア語が話せる気はしません(笑)」

いや、そうかな。確かに我々には大変だけど、ロシア人はロシア語を楽にすらすら話すんじゃない？ネイティブ・ランゲージだしね。それなのに一般論で「ロシア語＝難しい」とは言えません。そうでしょ。じゃあ誰にとって難しいんだろ？…それもこの文からはわかりませんね。

つまりこの文は「誰が」ロシア語を話す時の話が明示しなければ意味が通じない文だと言えます。そう。今までいらないと言いつつ続けたが、ついに今回、どうしても㊦が必要なんです。しかし、不定詞を作ると㊦は通常消えてしまうんです。じゃあ、どうすればいいのだろうか。…ないものはつけるしかないですよ。はい、注目。「㊦をつけなければ意味が通らない場合は、人工的に㊦をつける。」ちなみに、この㊦。文法用語ではこう呼ばれます。…**意味上の主語**と。

## ● 受験生が怯える難所！意味上の主語とは

「意味上の主語」というのは「文のSではないけど、意味から言って、不定詞のSと言えるもの」ということ。そう、ただの⑤です。言ってしまうと⑥は「意味上の目的語」、⑦は「意味上の補語」です。実は、それだけなんです。

でも実は、これ、多くの受験生が本当に苦手にする単元なんです。なんで、これだけのことが多くの受験生を苦しめているのかはもうわかるね。この第0講を受けていないからです。一般的な受験生は「準動詞」は文を崩したものであることを知らない。だからいきなり「意味上の主語」とか言われても訳が分からないんです。その点君たちは、準動詞は文を崩したものであること、そして通常はSは失われてしまうことを知っている。準動詞の要素の中で、⑤だけはわざわざ書いてあげなければいけないから、ここでその書き方がクローズアップされているということも理解できるんです。分かりますか。これが理解です。「文を崩したもの」ということを知らないだけで、多くの受験生は形を暗記することになります。第0講を読むのに費やす数十分を、これから取り返してさらにお釣りをジャラジャラ稼いでいきますよ。いいですね。

ちなみにさっきの文。⑤をつけるとこうなります。

	⑤	⑥	⑦
It is very difficult [for me to speak Russian].			
(S)V	C	S	
仮		真	
「私がロシア語を話すのは非常に困難だ。」			

⑤の形は各分野によって違うので、不定詞の項は不定詞の項で、動名詞の項は動名詞の項で覚えてくればい。これは不定詞のやり方です(詳しくは不定詞のところで行います)。とりあえずここでは、「準動詞にするときに通常消えてしまう元S、つまり⑤を学校では『意味上の主語』と習い、補わなければならない時に補うことができる。」ということがわかればOK。そしてもう一つ知ってほしいのは、「意味上の主語は主語なので、必ず『～が』と訳さなければいけない。」ということ。今回はfor meとなっていますが「私にとって」と訳してはいけません。「私が」と訳すんだ。

まあ、後は各章でやりましょう。ここまで読んでいるだけで、もう、この範囲に関しては、かなりの受験生をごぼう抜きにしていると言えるね。さあ、他にも失われた機能がありますよ。次を見てください。

## ● 準動詞の否定（否定文）

準動詞にしてしまうと、否定文がそのままでは表せなくなってしまう。だってそうでしょ。to play baseball に、否定文だからって、don't to play baseball なんて言えないもんね(don't の後ろは動詞じゃなきゃいけない。そして繰り返すけど、不定詞になった瞬間から to play baseball はもう動詞じゃない！)。じゃあどうするかっていうと、否定の表し方は準動詞の仲間はず〜んぶ同じです。そして簡単。今この瞬間に覚えてしまいましょう。

準動詞の否定の表し方＝準動詞の前に not をつける！

これすごく簡単なんだけどね。よく文法問題で出るんだよ。いい？例えば、不定詞なら to V の前に not を置けばいいんだから、not to V にすればいいわけ。動名詞なら not ~ing。分詞も分詞構文も同じで not ~ing か、not~p.p.にすればよろしい。それだけです。じゃあ、これ、大学入試問題の頻出問題から。解いてみましょう。これ、試験当日、本番で本当によく出る問題です。

次の①～④の中から、正しいものを選べ。

「風邪をひかないように注意した方がいいよ。」

You had better be careful ( ).

①not catch cold ②not to catch cold ③to not catch cold ④to catch not cold

わかりますね。答えは②だよ。ちなみに①だと catch が動詞のまんまだよね。問題文には had better be っていう動詞が既にあるから、動詞が 2 つになってしまう。これは絶対ダメでしたね。この文接続詞も何もないもん。③と④は不定詞になってるけど語順がおかしいので×です。問題ないですね。受験問題もこんなもんです。即答でした。じゃあ、次に行きましょう。

## ● 完了準動詞（時制）

さあ、完了準動詞と聞いて、ビビらないで(笑)。お願いだからビビらないで下さい。これ、全然難しくないから。ちょっと雑談しますか。あのね、英文法で受験生が苦手な分野ってどこだと思いますか？…実はこんな範囲なんです。

- ・ 現在完了進行形
- ・ 仮定法過去完了
- ・ 完了不定詞
- ・ 独立分詞構文
- ・ 複合関係代名詞

共通点に気づきましたか？そう、名前が難しいところなんだね。笑っちゃうでしょ。英語の話なのに、日本語でビビっちゃって苦手意識を持っているんだ。例えば「鬼瓦貞子」って名前の女性を見ただけで、もうなんかものすごいムキムキな人が来そうだと思ってしまうようなもんだよね(笑)。でもそれ、鬼瓦さんにすごく失礼な話だよ(笑)。逆に「さくら」とか「ありさ」とか、そんな名前だけど、「となりのトトロ」みたいな人だってきつっているでしょ(笑)。名前と中身は関係ない。先入観を持たずに、ただ中身を見つめるようにしてくださいね。

それじゃ、完了準動詞の話に戻るよ。これも「完了不定詞」「完了動名詞」「完了分詞構文」の3つの種類があるんだけど(詳しい形はまたそれぞれのところで)、何度も言うけどここではとりあえず使用目的を理解してくればいい。目的はどれも同じ。「時制を表したいから」なんです。名前に「完了」とかついているけど、「現在完了形」とかとはなんの関係もありません。いい？「完了準動詞は、時制を表したいから使う」。まだこれしか言ってませんよ。もう一回言うけどビビらないでね(笑)？

実は準動詞にすると、時制を表すことができなくなるんです。ちょっと不定詞を例に考えてみると、確かに I play baseball. も I played baseball. もどちらも不定詞にしまえば to play baseball だもんね。準動詞にしたことで時制を表せなくなっていました。

でも、基本的にはあんまり困らないんです。例えば

I was happy <to see you again>. 「あなたにもう一度会えて幸せでした。」  
S V C 元の文=I saw you again.

でも唯一困る場合があります。それはさっきと違って、「㊦とVで表している時間が違う」時で、しかも「㊦がVよりも前であることをきちんと明示しないと意味が通らない」時。その場合はこうやって時制を表します。

準動詞の時制の表し方＝準動詞を完了準動詞の形にすると！⑦がVよりも前であることが表現できる(それが精いっぱい機能)。

詳しい形は後でゆっくりやるとして、ではどういうパターンが、「㊦とVで表している時間が違う」時で、しかも「㊦がVよりも前であることをきちんと明示しないと意味が通らない」時なんのでしょうか？ 次の文を見てください。

「彼はお金持ちであつたらしい。」

(×)He seems to be rich.

© V ©

(○)He seems to have been rich.

S                  V                  C



上の方の文だと、seems と to be の時間差はないように見える。だからつまり、「今彼は実際に金持ち(”He is rich”)な状態」で、そして、かつ「今彼は金持ちに見えている(“He seems to be rich.”)状態」だと読めます。だからこれでは「彼はお金持ちであるらしい。」という意味になってしまう(そういう意味の文では正解です)。これでは「昔金持ちだったように、今見える」という意味を表すことができない。どうすればいいんでしょう。

答えは簡単。それなら「㊦がVより前のことだよ」とわかるように書けばいいんです。その「Vよりも前の㊦」を表すのが、「完了準動詞」です。今回の不定詞ならば、to have p.p.の形が「完了不定詞」。不定詞をこの形で書いた場合、Vよりも前の動作であることを示します。

いいですね、ややこしいことなんかありません。「完了形」なんて関係ないですよ。Vよりも㊦が前である場合だけ、準動詞の書き方を変えてあげるだけです。時制がいつであるかなんて関係ありません。「Vよりも㊦が前」であれば、完了準動詞を使います。図で書くとこんな感じですかね。

普通の準動詞か、完了準動詞か

V	㊦	使う準動詞
現在	現在	準動詞
現在	過去	完了準動詞
過去	過去	準動詞
過去	大過去	完了準動詞

最後にもう一度。「Vよりも㊦が一つ昔であれば完了準動詞を使う」。これをしっかり覚えておきましょう。ちなみにVが㊦より前になることはありません。それでは次に行きましょう。

## ● 準動詞の受動態（受動態）

あらら…準動詞は受動態も表せられなくなってしまったんですねえ。まあ、準動詞の受動態を表す場合は受動態の **be+p.p.** の形と準動詞を組み合わせます。受動態の仕組みはわかってるでしょうから、これに関しては各分野で改めて形を覚えてもらえれば OK です。

それでは今回学んだ事項をまとめ直してみましょう。今日の話は他ではきちんと教えてもらえない超貴重なものばかり！しっかりと“全部”理解してから次の講へと進もう！次はいよいよ不定詞のスタートですよ！一泡吹かせて差し上げようじゃありませんか！

## 今回の復習

準動詞…文を崩して、違う品詞のカタマリに変えてしまうもの。 [1]

文	名詞	形容詞	副詞	形
不定詞	○	○	○	to V ~
動名詞	○	—	—	~ing
分詞	—	○	—	~ing / p.p.
分詞構文	—	—	○	~ing / p.p.

なんのために必要？ → 文に文を繋ぐため。接続詞と違い、片方の文を崩す方法で2つの文を繋ぐ。 [2]

しかし、準動詞は半分動詞の機能を崩して、違う品詞にするので、半分はまだ動詞としての機能するものの、動詞から失われてしまう機能がある！

動詞のまま残っている機能…文の大黒柱としての機能

→準動詞を元の文に戻せるようにしよう！

動詞から失われてしまった機能 [3]

④主語 →必要ならば意味上の主語をつけて対応。

①否定 →準動詞の前に **not** をつけて対応。

②時制 →完了準動詞にして、時間差を表すことで対応。

完了準動詞=V よりも一つ前の時制であることを表す V の形。時間差を表すだけで、完全には時制を

表せなくなっていることに注意！ [4]

③受動態 →受動態の形をつくって対応(各文法分野で解説)。

→この「半分動詞」「半分違う品詞」の状態が「準動詞」の名前の由来！！ [5]

「準チョコレート」も「半分チョコ」「半分牛乳と砂糖」だ！！

《CHECK》以下の事項を自分で説明できるようにしよう。答えは上に！

[1]準動詞とはなんですか？

[2]準動詞はなんのはたらきをするんですか？

[3]準動詞になる際に失われてしまう機能にはどんなものがあるんですか？

[4]完了準動詞ってなんですか？

[5]“準動詞”ってどういう意味ですか？

# 第1講 不定詞の理解

## ●不定詞は文を3つの種類に崩す

さて、今回から不定詞の範囲に入っていきますが、第1講の復習は大丈夫ですか？あとは前回やった原理に当てはめていくだけなので、それが理解できていない人は次に進む前にきちんと理解してから読み進めてくださいね。

それでは不定詞に入っていきます。前回の図をちょっと見てみますか。

### 準動詞のはたらき

文	名詞	形容詞	副詞	形
不定詞	○	○	○	to V ~
動名詞	○	—	—	~ing
分詞	—	○	—	~ing / p.p.
分詞構文	—	—	○	~ing / p.p.

さきに展望を明かしておくと、この図からわかるように、不定詞は文を「名詞」「形容詞」「副詞」に変えることができるので、講義もこの順に進みます。それではまずは名詞用法から行きましょう。

## ● 不定詞の名詞用法…カタマリで1つのSCOになる

不定詞の名詞用法は簡単です。まずは軽くウォーミングアップ。前回の原理を当てはめて生きながら、準動詞に慣れていきましょう！…と、その前に名詞のはたらきの確認です。

名詞…(例)Tom, a pen

文の中で主語(S)・補語(C)・目的語(O)になる。大切な役割を果たす品詞。

不定詞の名詞用法は「カタマリ全体」で、Tom や a pen と同じはたらき、つまり主語・補語・目的語を担当する役割をするということね。名詞のカタマリはこの本では[ ]で表すよ。これでくくった部分が不定詞の名詞用法だということだ。

不定詞の名詞用法が主語になる

⑦ ⑩

[To play tennis] is fun.

S V C

「テニスをすることは楽しい」

= ~ play tennis.

さあ、復習ですよ。この文で不定詞はいったいどれですか？

(生徒)「to play tennis ですか。」

その通り。不定詞の範囲にはちゃんと tennis までを含めてくれないと、じゃあいったいこの“tennis”は構文上なんのはたらきをしているんだという話になるからね。だって名詞なのにこんなところにいたら S・O・C のどの役にもなれない。不定詞は文を崩したもののなんだから、「play が動詞だった時代の元・目的語さん」だと説明するほかない。

(×)[To play] tennis is fun

S ? V C

それからこの場合、「誰がテニスをすれば楽しいのか」について言っているわけではなくて、「(一般的に)テニスをすることは楽しい」ということ

を言っているので、㊦はわざわざいらない。わざわざ言わなくていい場合は消えたまま。ここまでいいですね。

ちなみに文頭に不定詞が来た場合は、2パターンの可能性があるよ。名詞用法か、副詞用法。意味からではなく、形から見分けるのが賢いやり方だ。

### 文頭の不定詞の見分け方

[To V ~] V                      …不定詞句の次に動詞(V)が来ている  
S                                      = 名詞用法

<To V ~> S V                      …不定詞句の次に主語・動詞(SV)が来ている  
                                            = 副詞用法

不定詞の“句”っていうのは“カタマリ”のことね。このカタマリの後に、V が来ているということは、不定詞のカタマリが主語になっていると考えられるから、当然不定詞句は名詞用法だ。反対にその後ろに SV が来ているなら、不定詞が S になってはいけなから副詞用法と決まる。えっ、先生、形容詞用法の可能性はないのかって？後で詳しく説明するけど、不定詞の形容詞用法は必ず前に名詞が必要になるから、文頭に立つことはあり得ないんだ。さあ、これで S になるパターンはおしまい。

### 不定詞の名詞用法が補語になる

	㊥	㊦	
My hobby is [To play tennis].			「私の趣味はテニスをすることです。」
S	V	C	元の文= I play tennis.

さっきの不定詞の句を補語にもってきた文です。これはいいですね。特に説明することはありません。今回はSのMy hobbyというところから「私がテニスをする事」だとわかるので、やっぱり㊦はいりませんねえ。

## 不定詞の名詞用法が目的語になる

⑦                      ⑩  
I like [To play tennis].  
S   V                      O

「私はテニスをするのが好きです。」  
元の文= I play tennis.

これは前回の講義の最初に挙げた文ですね。このように目的語にもなります。不定詞の句を見たら、「やらなくていい」と言う場合を除いて、必ず⑦⑩…といった風に記号をふって、元の文を復元してくださいね。答えは書いてありますから。

## ● 不定詞の名詞用法…形式主語(仮主語)構文と形式目的語(仮目的語)構文

さて、これで不定詞の名詞用法の基本形は終わりました。今度は形式主語構文(別名：仮主語構文)と形式目的語構文(別名：仮目的語構文)について扱っていきましょう。

さっきも言ったとおり、不定詞の名詞用法はあの複数語がヒトカタマリになって、**Tom** とか、**a pen** と同じようにはたります。たしかにはたらかは同じなんですが、**大きく違うところは“長さ”**です。そう、不定詞は長い。なんたって元々文ですからね(笑)。文をちょっと骨格をズラしてぶちこんでるわけですから、そりゃあサイズは1単語の名詞と比べたら大きくなる。

これはよく聞く話だと思うんだけど、アメリカ人を始め、ゲルマン系の民族というのはとにかく話の結論が出るのが速い。日本語は文末まで聞かないと結論が出ないんだけど、英語なら文の **SV** さえ聞けば、何が言いたいかわかりますね。そんなアメリカ人からしたら、早く結論が欲しいのにいつまでも不定詞句が続くのが耐えられない、ほどではないにしてもイライラするわけです。そこで文末に不定詞の名詞用法をまわしてしまって、そこに身代わりの **it** を置いておくという方法を編み出しました。それが形式主語構文、形式目的語構文です。形式主語構文なら **S** の位置に **it**、形式目的語構文なら **O** の位置に **it** を置いて、そこにあった不定詞の名詞用法

は文末に移動します。ちょっと板書を見てください。

㊦

㊧

[To answer the question ] is impossible.

S

V

O

「その質問に答えることは不可能だ。」

元の文= ~ answer the question.

㊦

㊧

→ It is impossible [to answer the question].

(S)V

C

S

仮

真

頭の to answer the question が重いので、文末に回しています。こいつが本当の主語なので、「真主語」と呼びます。その代わりに置いた it が「形式主語(仮主語)」。要は「身代わり」です。

こうすれば「それは不可能だ」とまず言い切って結論が出ますね。「それは不可能だ→なにが？→その質問に答えることが。」という良いリズムで英文が読めます。

ただし気を付けてほしいのはこの it は「それ」と訳してはいけないということ。これはただの身代わりなので、幽霊のように実体がないんです。訳すときは最初の文と同じように。どちらも「その質問に答えることは不可能だ。」です。いいね。

さて、今度は形式目的語構文でいきましょう。今度は目的語に不定詞句が来たときに文末に回しますよ。ただ、当たり前だけど SVO の第3文型だった場合、文末に回すまでもなく O は文末にありますよね。だから、形式目的語構文は第5文型、つまり SVOC の時に使います。しかもこの形をとる動詞はせいぜい3つ、find と make と think くらいです。



⑤                      ⑥

I found [to solve the problem] difficult.

S    V                      O                      C

「その問題を解決することは困難だ。」

元の文= ~ solve the problem.

⑤                      ⑥

→ I found it difficult [to solve the problem].

(S)V    O    C                      O

仮                      真

板書を見れば上の文に比べて、下の文は SVOC がぎゅっと詰まっているのがわかりますね。とりあえず「それは難しい」と述べておいて、「それってというのはその問題を解決することなんだけどね。」と繋げている。ここまでよろしいな。

## ● 疑問詞+to do

さて、次は疑問詞+to do なんだけど、これに関しては別にむずかしいことはありません。この形で名詞のカタマリを作ります。訳は「疑問詞すべきか」。一覧表で確認してください。

- |                    |                 |           |
|--------------------|-----------------|-----------|
| ① what to do ~     | 「何を V すべきか」     |           |
| ② what 名詞 to do~   | 「どんな名詞を V すべきか」 |           |
| ③ which to do ~    | 「どちらを V すべきか」   |           |
| ④ which 名詞 to do ~ | 「どの名詞を V すべきか」  |           |
| ⑤ how to do ~      | 「どのように V するのか」  | = 「V の仕方」 |
| ⑥ when to do ~     | 「いつ V すべきか」     |           |
| ⑦ whether to do ~  | 「V すべきかどうか」     |           |
| ⑧ where to do ~    | 「どこで V すべきか」    |           |

このカタマリで名詞になる、つまり主語や補語や目的語になるってことね。例えば The question is [which to buy]. 「問題はどちらを買うべきかだ」と言えば、which to buy が名詞として補語になってるってことね。これは元の文の形を考える必要はありません。じゃあ、名詞用法はおしまい。

## ● 不定詞の形容詞用法…カタマリで直前の名詞を説明する

不定詞の形容詞用法に行く前に、形容詞というものを確認しておきましょう。

形容詞…(例)pretty, cool, beautiful

名詞を説明する。説明の仕方は2パターンある。

限定用法（名詞にかかる形容詞のこと）…名詞を「限定」することで「説明」する。

a red apple 「赤い」リンゴ

他のリンゴが除外される(=リンゴが限定される)。

※ 1語の形容詞は名詞の前から、2語以上の形容詞は名詞の後ろから修飾する。

叙述用法(Cの形容詞のこと)…名詞を補語の位置で描写(叙述)して「説明」する。

The apple was red.      そのリンゴは赤かった。  
S      V      C      (=リンゴの描写)

不定詞の形容詞用法はやり辛いです。慣れるまではね。これを読んでるのが高1であれば、完全に理解する必要はないかもしれません。じゃあ、まずは限定用法から見ていきましょう。ちなみに不定詞は必ず名詞の後ろから修飾するよ。だって、絶対に2語以上になるもんね。それが不定詞の形容詞用法が文頭に立たない理由です。

## ● 不定詞の形容詞用法…限定用法

不定詞の形容詞用法は限定用法がメインです。3つくらいタイプがあるんだけど、きちんと見分けなければなりません。

不定詞の形容詞用法の名詞と不定詞の関係

- ①  $\begin{matrix} \text{O} & \text{V} \\ \text{名詞} & \text{(to V)} \end{matrix} \rightarrow \text{名詞を}\cdots\text{するという関係 (O-V 関係)}$
- ②  $\begin{matrix} \text{S} & \text{V} \\ \text{名詞} & \text{(to V)} \end{matrix} \rightarrow \text{名詞が}\cdots\text{するという関係 (S-V 関係)}$
- ③  $\text{名詞} = (\text{to V}) \rightarrow \text{同格関係(特定の名詞の後に to 不定詞が続くもの)}$

名詞を説明するのが形容詞です。そうなんだけど、「どんな名詞か」を表すのに、形の違いがあるんです。まずは①と②からやっていくよ。

$\begin{matrix} \text{O} & \text{V} \\ \text{He has a family} & \text{(to look after)} \end{matrix} \wedge \text{元の文 He looks after the family.}$   
「彼には面倒を見るべき家族がある。」

$\begin{matrix} \text{S} & \text{V} \\ \text{He has a family} & \text{(to look after him).} \end{matrix} \text{元の文 The family look after him.}$   
「彼には自分の面倒を見てくれる家族がある。」

上の文と下の文、違いはわずかですよね。after の後ろに him が入っているかどうか。でもこれだけの違いで、訳は全然違うからね。これは関係代名詞をやってから戻っているとわかりやすいかもしれません。要は、修飾している名詞(関係詞では先行詞と呼ばれますが)が不定詞句の中のどこに戻るかなんです。まず、上の文は after の後ろが空いていますね。これはわかりやすい。after の後ろに、a family が入ります。そうすると元の文は He looks after the family. な family という風になって、「彼が面倒を見る、

そんな家族」となります。

下の文を見ると、a family が戻る場所がなさそうですね。そうなったら、その名詞は look after の前。S の位置に戻ります。だから The family look after him. な family、つまり「家族が彼を面倒見る、そんな家族」となるわけです。ここまでいいですか。まとめましょう。

### 不定詞の形容詞用法の名詞と不定詞の関係

不定詞句内の目的語の位置が空いている → 修飾される名詞は㊦

不定詞句内に空きがない → 修飾される名詞は㊧

※ただし、同格関係を除く

おやおや、なんだか不思議な※がありますねえ。「同格関係」。これは先ほどの㊧のことです。「同格関係」の場合以外で、「不定詞句内に空きがない場合は修飾される名詞は㊧」というのが正確な話なんですね。じゃあ、同格関係というのは为什么呢。

その前に皆さんは「抽象名詞」って知ってますか。反対は「具体名詞」と言います。

具体名詞から話した方が分かりやすいだろうね。**具体名詞ってのは、形のある名詞。**例えば「机」「チョーク」「黒板」「稲永」「茄子」「たぬき」「坂」「車」…なんでも形がありますね。具体的なものだから具体名詞ね。

それに対して抽象名詞は要するにその逆。形のないものです。例えば「決定」「勇気」「機会」「試み」「能力」「権利」「努力」…こういうのって、お店に行っても買えませんよね。「すいませーん、おばさーん。能力ください」とか言って(笑)。おばさんは一体何者だって話になるよね(笑)。

ここで質問です。「私、犬飼ってるんだー。」って言われたらどう思う？

生徒「え？(固まる)……へえーって(笑)」

いいリアクションです。あっそう、って感じだよね。じゃあね、「私機会もってます。」って言われたらどう？「私、能力もってるんです。」でもいい。どうですか？

生徒「……何の？」

Very good.素晴らしいリアクションです。そう、要は抽象名詞って、それだけじゃなんのことかわからないんです。具体的な形がないから。「犬」ならわかるんですよ。四足でワンワン吠える獣でしょ。だけど「能力」ってちょっとわからない。つまり、**後ろに説明が欲しいわけだ**。英語では、**それをいろんな形で説明します**。その一つが同格。同格は不定詞以外にも、of 句でも表せるし、that 節でも表せる。カンマで表すこともできるんだけど、それは次の機会のお楽しみにしておきまして、今回は不定詞だけやってくよ。次の文を見てくださいな。

I have the decision (=to tell her the truth).

「私は彼女に真実を話すという決意をした。」

これなんかまさしくそうだね。「私は決定を持っています」って言われたってなんのことやらサッパリです。そういう時に後ろの不定詞がその「決定の」説明をしています。「彼女に真実を話す」って。同格は「という」と訳しますので、訳は「私は彼女に真実を話すという決意をした。」と訳します。これも元の文を意識する必要はありません。

さあ、これで不定詞の形容詞用法の内、限定用法が終わりました。叙述用法は実はかなり使われ方が限定されてます。

## ● 不定詞の形容詞用法…叙述用法 (be to 不定詞)

叙述用法は補語になるってことね。不定詞の形容詞用法が補語になるパターンです。この辺は文法問題より読解の方が知っておくと大きいですね。be 動詞＋不定詞の形容詞用法です。この形は **be 動詞と不定詞の to の部分を合わせて、「助動詞」だと思えば読みやすい**。to V の V を助動詞の後の動詞の原形だと思って読むわけです。「予定」「運命」「可能」「意志」「義務」「命令」を表します。覚え方を教えましょうか。頭文字をとって「妖怪ギメ」です(笑)。

The party is to be held on March 5.

「パーティは3月5日に実施されます。」

今回は「予定」ですね。でも「運命」でとっても悪くはない。「パーティは3月5日に実施される運命です。」としてもね。別に読めればいいんです。無理に分ける必要はない。ポイントは、「妖怪ギメ」のどれであろうと、Sの意志と関係なく to Vが行われるということです。「パーティ」の意志で実施されるわけじゃないよね。それよりも大事なものは、次の文です。

My hobby is [To play tennis].  
S        V        C

「私の趣味はテニスをすることです。」  
元の文= I play tennis.

これは「妖怪ギメ」のどれですか？

生徒「…えっと、意志？」

甘いですねえ。皆さん、この例文、2度目ですよ。そう、これは「名詞用法」だったよね(笑)。名詞用法も補語になるよね。これを区別しなきゃいけない。見た目は一緒だからね。読解対策として、見分け方をしっかりしておきましょう。

主語と不定詞が同じものであれば、その不定詞は名詞用法、違うものであれば、その不定詞は形容詞用法。

これをふまえてさっきの文を見てみよう。party と to be held って同じものじゃないよね。だからこの to be held は形容詞用法です。対して、my hobby と to play tennis って同じものだね。だからこの不定詞は名詞用法です。いいかい。

これは他の場合も同じで、例えば I am a student. っていう風に補語が名詞

である場合は、I = student でしょ。でも She is pretty. って補語が形容詞の場合は、pretty というのは I の「様子」であって、pretty = I ではないでしょ。そこで見分けるんです。まとめておきましょう。

be 動詞の後ろの補語が名詞だった場合、その名詞は主語の定義・正体を表す。

さあ、大分長くなってしまいましたね。次は不定詞の副詞用法から始めます。とりあえずはここまで、しっかりと復習をしておいてくださいね。はい、おしまい。

(準動詞講義の実況中継(中)に続く。)

